

共に地域を盛り上げよう！

「宮古復興まつり」に、生協共立社・コープあいち・日本生協連が参加



にぎわう「復興フェスタ」の会場。

11月3日、いわて生協マリンコープDORAにて「宮古コープ復興まつり～笑顔・元気・絆～」が開催されました。当日は、天気にも恵まれ、約10,000人が訪れました。

復興まつりには、生協共立社（山形）の職員・組合員、コープあいち、

日本生協連の職員が参加。生協共立社の出店ブースでは「いも煮」「玉こんにゃく」の2大名物郷土料理の実演販売や、生協共立社との取り引きがある事業者・生産者から無料あるいは格安でご提供いただいたお米「つや姫」（山形おきたま産直センター）、「りんご」（大谷果樹組合）、「こんにゃく各種」（ヤマコン食品）などの販売を行ないました。

コープあいちの出店ブースでは、コープあいち独自の商品である「渥美半島めろんあいす」やこの間岩手県気仙地区での炊き出し支援などで提供し続けてきた「ジャンボ焼き鳥」、「五

平餅」などが販売されました。

復興まつりが終わったあとは、「お疲れさま！懇親会」がマリンコープDORAの会議室を使って開催され、参加者同士が労をねぎらいました。懇親会では、生協共立社とコープあいちから、いわて生協理事長の飯塚明彦さんへ募金を手渡されました。



フェスティバル終了後に行なわれた懇親会の様子。

「へちまを通じて話が弾みました」

みやぎ生協が「へちま絆プロジェクト」の成果をコープこうべに報告



交流会では活発な意見交換が行なわれた。

11月5日～6日、みやぎ生協県北ボランティアセンター（VC）のメンバー（組合員）と仮設住宅の住人計7人が、この夏行なわれた「へちま絆プロジェクト」^{*}の報告のためにコープこうべを訪問しました。1日目は阪神・淡路大震災の3年後に建てられた災害復興公営住宅（兵庫県・芦屋市）でシルバーハウジン

グにおける生活援助員（LSA）の緊急対応・安否確認等の活動を視察し、2日目は交流会を行ないました。

みやぎ生協県北ボランティアセンター長の千葉淳子さんは、「へちまづくりを通じて、近所の方や組合員さんとも話が弾み、夫婦の会話も増えたとお話も聞いています。感謝の気持ちでいっぱいです。そのなかで、やはり、依然として孤立している方々への支援の課題は残っています。今後のサポート、橋渡し役は私たち生協の仕事と考えています」と話し、同副センター長の春日京子さんは、「コープこうべの皆さんから『できるかできないかはこちらで決

めるから、何でも言ってほしい。そうでないと何もできない』と言われふっきました」とお礼を述べました。交流会では、今後の支援のあり方について、互いに活発な意見が出されていました。

^{*}仮設住宅に引きこもりがちな住民同士の交流のきっかけづくりとして県北VCが取り組んだ、仮設住宅の夏の暑さを和らげる「へちま」のグリーンカーテンを作る活動。コープこうべが、栽培用プランターやネット、種などを送り、支援をした。



育てたへちまで作った「へちまタワシ」が、コープこうべに贈呈された。



「へちま観察記」も贈呈された。